

実りある授業のために 中学校音楽

〔H24. 秋〕 島根県教育委員会

♪ 1 学習指導について

①指導のねらいや手だてを明確にし、子どもが感性を高め、思考・判断し、表現する一連の過程を重視する！

- ・これは、音楽科の特性に即した思考力・判断力・表現力の育成のために不可欠なことである。すなわち、音や音楽から感じ取ったことをもとに思考・判断したことを言語等で表現していくことである。そのためには、〔共通事項〕の事項アに位置付けられている「音楽的な感受（知覚＋感受）」を基盤とした授業づくりを行っていくことが大切である。

②思考力・判断力・表現力の育成！

＜表現領域＞

- ・歌唱、器楽、創作で表すことが子どもにとって意味のある学習となるように、〔共通事項〕の学習を支えとして、音楽表現を工夫し、必要な技能を身に付け、どのように表すかについて思いや意図をもつ過程を大切にする。このことが、表現領域において思考力・判断力・表現力を育む学習指導のポイントである。

＜鑑賞領域＞

- ・音楽のよさや美しさなどを味わって聴くことが子どもたちにとって意味のある学習となるように、〔共通事項〕の学習を支えとして、音楽を解釈したり価値を考えたりする過程を大切にする。このことが、鑑賞領域において思考力・判断力・表現力を育む学習指導のポイントである。

＜〔共通事項〕＞

- ・学習指導に当たっては、音楽から引き起こされる自分の感情やその変化を意識できるようにするとともに、「なぜ、そのように感じるのだろう（感受）」、「それは音楽のどんなところからだろう（知覚）」などと問いかけて、音楽を形づくっている要素に対する気付きを促すようにすることが大切である。
- ・〔共通事項〕のイの指導内容である〈音楽に関する用語や記号などを理解する〉学習は、そのみを単独で行うのではなく、「音楽的な感受」と一体的に行うことによって、子どもが実感を伴って理解できるようにすることが大切である。

③創作と鑑賞の学習指導の充実！

- ・創作は〈音を素材として、音楽をどのように形づくっていくか〉を直接体験することによって、また、鑑賞は〈音を素材として、音楽の全体や各部分がどのように形づくられているか〉を考えることによって、音楽の構造を理解したり雰囲気や表情を感じ取ったりする力などを高めることができる。このような創作と鑑賞の学習を質的に充実することは、音楽科教育の重要な実践課題である。

＜創作＞

- ・生徒が即興的に音を出して、音や音楽の質感を感じ取りながらいろいろと試して、どのように音を組み合わせるかななどを自ら決めることができる学習過程を大切にする。実際の学習指導に当たっては、〈つくるための手掛かりとなる条件を適切に設定して示す〉ことと〈子どもの自由な発想を大切にする〉ことの両者のバランスを図ることが大切である。

<鑑賞>

- ・言葉で説明する、批評するなどの活動を取り入れることによって、鑑賞の学習本来の目標を実現することを目指している。実際の学習指導に当たっては、学習の対象となる音楽について、自分はどのように感じ取ったのか、その理由としての音楽的な特徴は何か、そして、自分にとってどのような価値があるのかなどを、思考・判断し、表現することによって、主体的・創造的に味わって聴くことができるようにすることが重要である。

④言語活動を取り入れた指導の充実！

- ・言語活動については、各学校段階に応じて〈音楽の表現や鑑賞の学習を充実させるために〉言語活動を適切に取り入れることが重要である。その際、目的と手段を混同しないように十分留意しなければならない。例えば、音楽表現を創意工夫したり音楽を聴いてよさなどを考えたりする学習活動の過程に、気付いたことや感じたことなどを発言する、ワークシートに記入・整理する、ペアなどで話し合う、批評文にまとめるなどの言語活動を効果的に組み込むようにする。
- ・音楽に関する用語などを用いながら音楽的な特徴などを言葉で述べることは、音楽の学習で身に付けた力が言語活動によって表れたものである。したがって、音楽の表情や雰囲気などと、その質感を生み出している音楽的な特徴を関連付けて、音楽に関する用語などを適切に用いて言葉等で表すことができるように指導することが重要である。

♪ 2 学習評価について

①観点イ及び観点エの趣旨について！

- ・観点イ「音楽表現の創意工夫」は、〈音楽的な感受〉に基づきながら音楽表現を工夫し、どのように音楽で表すかについての思いや意図をもっている状況の評価し、また、観点エ「鑑賞の能力」は、〈音楽的な感受〉に基づきながら解釈したり価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている状況の評価する。

②思考・判断・表現に係る評価規準の設定について！

- ・観点イ「音楽表現の創意工夫」の評価規準は、観点の趣旨に沿って「～を知覚し、～を感受しながら、～表現を工夫し、どのように～かについて思いや意図をもっている」のように設定する。
- ・観点エ「鑑賞の能力」の評価規準は、観点イと同様に「～を知覚し、～を感受しながら、～解釈したり価値を考えたりして、～のよさや美しさを味わって聴いている」のように設定する。
- ・上述の評価規準の設定の際、「～」の部分には、題材における目標、指導内容、教材の特徴、学習活動など、ふさわしい文言を入れる。〈音楽的な感受〉に当たる「～を知覚し、～を感受し」は、観点イ「音楽表現の創意工夫」及び観点エ「鑑賞の能力」の両方の観点に共通する。

③評価場面等の精選！

- ・子どもの状況を常に把握して工夫のある指導を十分に行う中で、結果を記録に残す評価を行う場面等を精選することが重要である。
- ・従前の音楽の評価計画では、「題材の評価規準」を設定し、さらに、それを具体的にした「学習活動における具体的評価規準」を設定するケースが多かったが、評価場面等を精選することによって、「題材の評価規準」をそのまま実際の学習評価に用いることも可能になる。